



陸の水

No.18

日本陸水学会 東海支部

日本陸水学会東海支部会
ニュースレター2004年5月

発行：日本陸水学会東海支部会
住所：467-0003 名古屋市瑞穂区汐路町3-40
名古屋女子大学環境保全研究室内
Tel. 052-852-9739
Fax. 052-852-7470

支部会長あいさつ

中部大学 寺井 久慈

日本陸水学会東海支部会は6年前の1998年6月に発足しました。当時は藤前干潟の埋立て問題が一件落着し、名古屋市がゴミ行政を180度転換して市民も協力してゴミ減量作戦に取り組み始めた時でした。それから2年も経たないうちに名古屋市の埋立てゴミが半減し、名古屋市が環境先進都市として全国的にあるいは国際的に評価され、2002年11月に藤前干潟がラムサール条約に登録されました。ラムサール条約に規定されている湿地・浅水域はまさに陸水学が研究対象としているフィールドであります。藤前干潟とともにラムサール条約は一般に馴染み深くなりましたが、陸水学に関しては今少し馴染みが薄いように思われます。今までそうでしたが、これからも水環境問題を考える上での基礎科学として陸水学は重要です。藤前干潟が埋立てを免れてラムサール条約に登録されるに至った経過の中で藤前干潟を守る会やゴミ問題を考える会などの市民・NGOの活躍が重要な役割を果たしましたが、中でも自らの手で環境を調査する活動が行政を動かしました。特にアナジャコの生態に関する調査は環境アセスの不十分さを指摘して再調査を行なわせ、藤前干潟の浄化能の見積もりをマイナスからプラスに変えさせる上で決定的な役割を果たしました。残念ながらこの問題では、陸水学は直接貢献出来ませんでした。しかし、その後の藤前干潟の無酸素水塊によるベントスの斃死問題では、藤前干潟内の窪地が深見池と同様の状況にあることを把握し(日本陸水学会東海支部会助成金研究)窪地の埋め戻しが干潟環境の修復には欠かせないことを示しました。これは2000年度から始まった東海豪雨激甚災害特別事業のモニタリングにより再確認されて2004年度に埋め戻しが実施されることになりました。

この藤前干潟内の窪地の埋め戻しにより干潟環境の改善はある程度図られると思われますが、今、それでは追いつかないくらい伊勢湾・三河湾の状況は悪化しています。昨年から財団法人国際エメックスセンターの援助により伊勢・三河湾の環境改善に向けた市民・NGOのネットワーク作りの取り組みが進んでいますが、伊勢・三河湾の集水域全体を通じた水環境の改善のための活動を目指すものです。「集水域の水環境」は陸水学のキーワードでもあり、このような伊勢・三河湾の環境改善に対して日本陸水学会東海支部会としても積極的に取り組んで行きたいと思います。そのためには若い学生や中

学・高校の先生、環境関連企業、行政関係者などに幅広く呼びかけて支部会に加入していただき支部会活動を活発化させるよう、会員諸氏のご協力をお願い致します。



陸水学会東海支部会で講演する 寺井 新会長 (2004.3.27 於四日市大学)

総会記録

—支部会・今年の運営方針—

2004年3月27日(土)、四日市大学で開かれた2004年度総会で、次年度の活動方針が了承されました。

1. 役員

会長	寺井久慈(中部大)	
事務局	(代表窓口)	村上哲生(名女大)
	(広報担当・会報)	村上哲生(名女大)
	(広報・メーリングリスト担当)	吉田恭司(愛知県)
	(会計担当)	服部典子(名女大)
	(事業担当)	伊佐治知明(名古屋市)
	(同上・伊勢三河湾市民ネット担当)	井上祥一郎(名邦テクノ)
	(会計監査)	川瀬基弘(愛知みずほ大)

総会時に総会担当幹事として承認を受けました土山ふみさん(名古屋市環境研究所)は、都合により、役員を辞退されました。

役員会は、原則として、第三木曜日 19:00 より名古屋女子大学汐路学舎本館 305号室村上研究室で定期的に開催します。会員は参加自由です。ご意見のある方はいつでもおいで下さい。電話(052-852-9739; 村上研究室直通)、またはメール(murakami@nagoya-wu.ac.jp)でのご意見、ご提案も歓迎します。

2. 支部会活動

1) 会報配布の復活

1回/2月の頻度での発行を目指します。

2) メーリングリストの整備と活用

取り敢えず、会員の皆様のメール・アドレスの整備から手をつけます。ご協力お願いいたします。

3) 総会の年度内開催

研究発表会・総会は、必ず年度内に開催し、活動、経理等の報告をいたします。「総会・懇親会は温泉で!!」の良き伝統は復活します。

4) 「陸水」の教科書の編纂

足元の東海の陸水を見直す目的で、大学生向けの教科書を作ります。朝倉書店の出版で来春の発行を目指します。教科書売り上げの収益の一部は、運営費として支部に還元します。

5) 夏の「陸水学サマースクール」(市民・学生対象)

陸水学の初步を学ぶサマースクールを一泊程度の日程で、夏休みに開催します。学生・市民など陸水学に興味がある方なら誰でも楽しめるような企画を準備いたします。詳しくは続報で。

6) 環伊勢湾一斉水質観測(EMEX)(市民・学生対象)

「伊勢湾・三河湾市民ネットワーク」の環伊勢湾一斉観測(市民による貧酸素水塊観測)を共催します。詳しくは続報で。

7) その他(見学会の復活)

計画中。

3. 経理

2002, 2003 年度の2年間未納会費は請求しません。

2004 年度予算

収入	金額	備考
前年度繰越金	128,253	
会費収入	160,000	一般会員 @2,000 × 80 人
寄付金	100,000	教科書印税等
雑収入	0	
利息	0	
計	388,253	

支出	金額	備考
郵送料	50,000	「陸の水」6回、総会案内等
ニュースレター発行費	60,000	
要旨印刷費	30,000	
事業費	50,000	総会、陸水サマースクール補助
雑費	10,000	文具等
予備費	188,253	
計	388,253	

2002, 2003 年度の会計処理が不適切でしたので、両年度の会計監査を再度行い、続報で公表します。会計処理後補正予算を組みます。

4. その他・本年度の継続検討事項

役員選出過程の公開

会員の呼び戻しと拡大

関連学会・研究会・行政(水環境学会、伊勢湾グループ、ため池の自然研究会、国交省、県、市)との連携

会費納入のお願い

日頃は、日本陸水学会東海支部会員の皆様にはご理解、ご協力いただきまして感謝申しあげます。

2002年度、2003年度の未納会費につきましては諸事情により請求しないことになりました。したがって、今年度の会費2千円(学生千円)のみご請求いたします。事情ご賢察の上同封の郵便局振込み用紙をご利用いただき会費の納入をお願いいたします。

第6回大会(四日市大学3月27日開催)時に2004年度の会費を集金しておりませんので、会費収入額は0円で会の運営に支障をきたしております。お忙しい時期にお手数をおかけいたしますが、なにとぞご理解ください。

会計担当 服部典子

会員名簿の更新について

現在2004年度の名簿を作成しています。会費払込書の通信欄に所属、住所、電話番号、Eメールアドレス(お持ちの方)をご記入ください。FAXをご利用していただいても結構です。

広報・マーリングリスト担当 吉田恭司

FAX送信先 (052) 852-7470 名古屋女子大学・村上研究室内東海支部会事務局

御名前	御住所〒 Tel () - E-mail アドレス
所属先	所属先御住所〒 Tel () - E-mail アドレス
御意見、御提案	

編集者より

『陸の水』ニュースレター原稿募集しています。会員の皆様の投稿をおまちしています。